

1. 件名：福島第一原子力発電所 E エリア D1・D2 タンク（フランジ型）の解体作業の状況に係る面談

2. 日時：令和3年7月7日（水）17時00分～18時00分

3. 場所：原子力規制庁 18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、林田管理官補佐、大辻室長補佐、知見主任安全審査官、高松専門職、横山係長、石井係長、久川係員、塩唐松係員

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当2名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所 担当8名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、福島第一原子力発電所における E エリア D1・D2 タンク（フランジ型）の解体作業の状況について、資料に基づき以下の説明があった。

- 現在、E エリアではフランジ型タンクの解体作業を進めている。
- 本作業を進めている中で D1 タンク内の残水処理を行っているところ、残水のアルファ核種の濃度が建屋内滞留水と同程度であることが判明した。
- 原因としては、R0 濃縮塩水等を貯留していたタンクの解体に伴って他タンクの底部残水を D1・D2 タンクに集約したことにより、主としてスラッジに含まれるアルファ核種濃度が高くなったと考えている。
- 今後の対応として、アルファ核種の存在を念頭に置いた漏えい及び被ばく防止対策を検討した上で、D1・D2 タンク内残水の上層の水を汚染水処理設備の上流側にあるプロセス主建屋等へ移送し、スラッジを取り除く作業を実施する。

- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、以下についてコメントした。

- 当該タンクは、運用開始より約9年が経過しているフランジ型タンクであることから、タンクからの漏えい防止について十分な対策を講じるとともに、出来るだけ早期にフランジ型タンクの解体作業の完了を図ること。
- タンク内の残水の移送及びスラッジの除去に伴うアルファ核種対策について、検討結果がまとまり次第、説明を行うこと。

6. その他

資料：E エリア D1・D2 タンク（フランジ型）の解体作業の状況